

「小羊の想い出」

小羊との想い出で欠かせないのが、おじちゃん先生の存在です。

星組の時から早番でお世話になり、朝登園すると必ずおじちゃん先生の膝の上に座っていました。よくお友達とおじちゃん先生の膝の上を取り合いしていました。昔からあまりお昼寝をしなくて、おじちゃん先生とよく遊んでいたと先生からお話を伺っていました。帰るとき、駐車場で立ち番をしているおじちゃん先生を見つけると、ものすごい勢いで抱き付いていました。いつも笑顔で優しいおじちゃん先生の事が大好きで、先生方から「彼氏」と言われるほどでした。

そのおじちゃん先生が天国に旅立ってしまい、朝の居場所が無くなってしまいました。その為、朝私から離れると大泣きし、行事の度に泣いていました。市川先生に「おじちゃんのおひざがない」と美喜が話していた事を教えて頂き、小さい心の中で大きな葛藤があったのだと気づきました。それから、朝登園すると、おじちゃん先生の膝の代わりにおじちゃん先生の写真に挨拶し、お花を添えるようにしました。すると新たな居場所を感じてくれ、精神的に落ち着いてくれるようになりました。また、先生方

の支えもあり、おじちゃん先生が天国に旅立ってしまった悲しみを乗り越えることができました。

沢山の方々の支えがあり、ここまで成長しました。これからの人生で困難にぶつかることがありますが、小羊で過ごした経験を糧にして乗り越えてくれることと思います。大人になったら何かしらの形で恩返しが出来ればと思います。

卒園児保護者

(小学一年生)

「保育園を思い出して」

夏休み中、二日間お手伝いに行かせて頂きありがとうございました。二人共良い体験となつかしさにふれる事ができ、とても喜んでいました。朝、子ども達を送って行く道のり、園に着いて先生方に「おはよう」と笑顔で迎えて頂いた時の朝の空気に私もなつかしさを感じました。二日間、それぞれのクラスに分かれて行動したそうで、侑理香は跳び箱を教えて跳べるようになった子がいた事と、ピアノを弾かせて頂き、みんなが静かに聴いてくれた事が嬉しかったそうです。亜莉沙は二日間お世話になる時に、自分はピアノが弾けないし、何もしてあげられる事が無いなあ……と悩